

## 2/20 マルコの福音書 10 章 17-31 節「永遠のいのちを受け継ぐために」

小池 宏明 牧師

主イエス様に駆け寄った金持ちの青年は、救いを求める「求道者」であった。彼は、イエス様が立派な良い教師であることを知って「永遠のいのちを受け継ぐためには何をしたらよいでしょうか？」と尋ねた。彼は、少年の頃からずっと旧約聖書の教えである律法を守ってきたと主張していて、律法を守ることが永遠のいのちを得ることだと思い込んでいたのだ。

### \*主イエス様がいつくしみをもって語る

イエス様は、彼の思い違いを見抜いて語られた。21 節「イエスは彼を見つめ、いつくしんで言われた。「あなたに欠けていることが一つあります。帰って、あなたが持っている物をすべて売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。」」

永遠のいのちは、主なる神様がお与えになるものだ。彼は、ユダヤ人指導者の教えに従って、神様を信じ、神様のことばを守ってきたが、実は、目に見える自分の財産に頼って生きていた。イエス様はそのことを見抜いておられたので、それらを売り払うように、執着することを止めるように言われた。大切なことは地上の富を天に蓄えて、主イエス・キリストに従って行く人生を歩み出すことなのだ。それが永遠のいのちに至る道だ。真の神である、主イエス様を心から信じて受け入れて、付いて行くことが永遠のいのちなのだ。律法を実行することで永遠のいのちは受け継ぐことはできない。

主イエス様のことばを聞いた金持ちの青年は、自分のすべての財産を処分することはできない・・・と悲しみながら立ち去った。しかし、イエス様は彼の心にある熱心な求道心と地上の財産に執着していることを見抜いて、憐れんでおられる。この後、青年がどうしたのか、聖書には記されていないが、彼が、主の御ことばを何度も何度も繰り返し思い巡らしながら、主イエス様に付いて行く信仰者になって行った、と期待したい。

### \*主イエス様との交わりを妨げるものに警戒するように

一見「厳しい」と受け取れる主イエス様の御ことばの背後で、私たち一人ひとりを見つめておられる憐れみ深い主の眼差しに気付いているだろうか？  
今、永遠のいのちを得るために、あるいは保つために、それを妨げているものや執着しているもの、捨てられないものは何だろうか？主イエス様の憐れみ深い眼差しを意識しながら思い巡らせてみよう。